

国が進める 緊急経済対策（スクール ニューディール）
 学校 ICT 環境整備事業 総額 4081 億円

小学校に電子授業がやってくる

カギを握る 電子教材と教授法

つい半年前までは「電子授業だとか電子黒板だとか言っているのはミントさんだけで、現場にはそんな気配もないですよ」と言う声を聞くこともあった。しかし今、学校現場には「スクール ニューディール」「学校 ICT」という黒船が押し寄せている。

ことの起こりは アメリカの金融破綻

それが一気に世界中に伝播して、日本も大きな波を被り恐慌へと発展してしまっただけで済んだ。経済対策として打ち出されたのが 1 兆 1 千億円のスクール ニューディール（太陽光発電と耐震工

事）と学校 ICT 環境整備事業（デジタルテレビへの買い替えなど）。文科省が計画を決定したのは 4 月で、各自治体の授業計画書提出期限が 6 月とあわただしく、そして事務的にすめられている。事業内容は、デジタルテレビ、電子黒板、コンピ



ュータ、校内 LAN と続くが、問題はこれらを活かす電子教材と教授法、そして教員研修。かつての LL 教室や CALL、

コンピュータ教室を経験してきた大学の先生方等からは、「カギは電子教材と教授法の開発にある」として、「研修し



第 11 号
2009 年 5 月 22 日(金)

発行所
ミント音声教育研究所
〒370-0013 群馬県高崎市萩原町 950-31
Tel/Fax 027-353-1091

紙面案内

記事	小学校に電子授業がやってくる / カギを握るのは電子教材と教授法	一面
企画	メディア点描 / 群馬昆虫の森	二面
連載	電子教材の諸用件 / 電子黒板の選び方 その 1	二面

ユーザーサポート
027-353-1091

m-Boxed やプレーヤーミント利用方法のお尋ねや教材のお問い合わせは電話で受け付けています

電子機器使いこなす 人材の育成へ

黒船の襲来を授業展開の好機と積極的に捕らえ返して、ハード（箱物設備）を使いこなし、人材を育てる道を探っていくことが、英語教育者共通の課題となっている。



お知らせ 英語学会などの関連発表予定

チャンクごとの読解状況を精密に記録する装置の開発と利用研究

6月13日 LET 関東大会(拓殖大学)

小学校英語における文字導入のすすめ - - - 電子教材が切り開く可能性

英文速読プログラムによる学習時の脳血流量変化に関する予備的研究

ソフトウェアのチャンク提示法による速読訓練の効果

以上3件 8月 LET 全国大会(神戸)
以上4件の詳細は前号

プレーヤーミントを使った日本語マルチメディア教材のデモンストレーション

教材作成の意図、教材でできること、学生の感想などを織り交ぜながら m-Boxed と MediaCD による実演を行なう

5月24日 / 2009 年度日本語教育学会 春季大会(明海大学浦安キャンパス)
発表者: 外崎淑子(東海大学国際教育センター)、宮城幸枝(同)

電子黒板を使った小学校英語(仮称) - - - 授業を豊かにするメディア

9月12,13日 / 2009 年度日本教育メディア学会年次大会(新潟大学教育学部)

NEW

NEW

電子黒板の選び方

その1

・・・電子黒板には別途電子教材が必要なんです。

こう言うと驚かれる先生方が多い。それほどなじみのない設備だ。

赤字脱皮 昆虫の森 挑む

予算減でも集客増へ

5月連休明けの読売新聞(地方版)の記事見出しです。

昆虫好きなので読んでいくと思わぬことが書いてあった。

県予算が赤字なので経費削減のため昆虫の森の映像トンネル(年間維持費6百万円)を廃止し、代わりに、職員がパネルや解説を手作りした。

「来園者は映像のトンネルでは通り抜けるだけだった。でも今は足を止めてじっくり見てくれる」(総務課)

テレビ一体型とプロジェクト型がある。

テレビ一体型は、文字通りちよつと大きめなテレビだが、電子黒板のように書き込んだり、コンピュータのモニターでもあり操作パネルでもある。コンピュータのモニターが大きくなつたと思つてもいい。

プロジェクト型は、プロジェクト型からコ

群馬の森に電話して話をうかがった。

二十くらいのプロジェクトでトンネルの壁面に映像を組み合わせて投影し、世界の環

メディアア点描

せつかくのメディアが朽ち果てる時

この春 群馬昆虫の森で



境と暮らしから始まつて出口近くでは身近な里山になるようにストリー性をもたせていました。暗いこともあり、走って通り抜ける子

ディアも使い方一つで無駄になつてしまうのです。これは、聞かせるだけのCDや見せるだけのDVDと同じだと言ふことを、すでに多く

ンピュータ映像を投影し、その映像(通常はホワイトボード)を専用ペンなどでつづいてコンピュータを操作したり文字を書いたりする。

家電感覚のテレビ一体型

テレビ一体型はテレビのように電源を入れるだけで家電感覚の使い勝手がうれしい。

の教育現場が経験してきたことです。

今回の学校ICT環境整備事業が同じ道をたどらないようにしなければなりません。それはただ単に「壮大なゼロ」ではなく、子どもたちが被害を被ることになるからです。

キーワードは情報の重み付け

来園者の年齢や関心に応じて情報を選択し、重みをつけて提供することの大切さ、電子授業にこそ人の要素が欠かせないことを「映像トンネル」の顛末が教えてくれたと思います。

その反面画面が小さくて、従来の一斉授業のような「黒板」とはいえない。画面が小さいので教室の後ろの方からは見えづらい。

スタジオ効果のプロジェクト型

黒板一杯に絵や字を提示して立体的な授業展開を望むならプロジェクト型となる。特に小学校英語の場合、言葉のコミュニケーション力を養いたいのので、右脳に訴える臨場感が必要となる。

また、スクリーンが大きいだけ生徒の集中力が持続しやしいし、先生のパフォーマンスも生きてくる。

ただ、プロジェクト型は家電製品ではなく電子機器なので、コンピュータと電子黒板の同期を取るための位置決め作業などの事前準備が不可欠となる。慣れれば1分はかかる。

操作のテレビ一体型効果のプロジェクト型

一長一短があつて悩ましいが、どちらを取るかと言われると、私なら

プロジェクト型を選ぶ。理由は簡単で、教育効果が高いからだ。ただ、扱いに詳しい人材が身近にいないとなればテレビ一体型と言う選択もあり得る。しかし、欧米では電子黒板は一般的な教具として普通に使われているので、日本の教員も程なく気軽に使えるようになる。

プロジェクトだけという発想の転換

前橋のマイク先生はすでに3年前からプロジェクト型による電子授業で高い効果を挙げてきている。その実践例を見学すると、大切なのはワイドな画面と大きな音量、そして日本語による説明がなくても意味が伝わる電子教材の完成度だとわかつてくる。このスタイルだと従来の一斉授業のやり方をそのまま使えるので、コンピュータに詳しくなくても電子授業を手軽に始めることができる。

慣れてきたところで、電子黒板機能を使えるようにスキルアップすると言つのが現実的で、かつ将来性がある。